

# 暗唱のすすめ 百人一首編④

十六 たち別れ いなばの山の峰に生ふる  
わか やま みね おウ  
まつとし聞かば 今帰り来む  
き いま かえこん

中納言 行平  
ちゅうなごんゆきひら

十七 ちはやぶる 神代も聞かず 竜田川  
かみよ き たつたがわ  
からくれなるに 水くくるとは  
イ みず

在原業平 朝臣  
ありわらのなりひらあそん

十八 住の江の 岸による波 よるさへや  
すみ え きし なみ エ  
ゆめ かよイじ ひと ン  
夢の通ひ路 人めよくらむ

藤原敏行 朝臣  
ふじわらのとしゆきあそん

十九 難波潟 みじかき芦の ふしの間も  
なにわがた あし ま  
あワ よ す  
逢はでこの世を 過ぐしてよとや

伊勢  
いせ

二十 わびぬれば 今はた同じ 難波なる  
いま おな なにわ  
あワン おもウ  
みをつくしても 逢はむとぞ思ふ

元良親王  
もとよししんのう